

J Aバンク山梨における地域密着型金融の取組状況（2019年度）

J Aバンク山梨（山梨県内J Aと山梨県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、2019～2021年度J Aバンク山梨中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

2019年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援支援の一層の強化

J Aバンク山梨は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

（1）農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク山梨は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

2020年3月末時点のJ Aバンク山梨の農業関係資金残高^(注1)は4,070百万円、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は4,937百万円を取扱っています。

(注)

- 1 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
- 2 J Aバンク山梨が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 単位 百万円

	2020年3月末現在
農業	4,070
穀作	147
野菜・園芸	397
果樹・樹園農業	1,190
工芸作物	0
養豚・肉牛・酪農	87
養鶏・鶏卵	49
養蚕	0

(注)

- 1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。
- 2 「農業関連団体等」には、J Aや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。

その他農業	2,200
農業関連団体等	0
合計	4,070

【資金種別別農業資金残高】

単位 百万円

種 類	2020年3月末現在
プロパー農業資金	3,074
農業制度資金	996
農業近代化資金	872
その他制度資金	124
合 計	4,070

(注)

- 1 「プロパー農業資金」とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- 2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJAバンク山梨が転貸で融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク山梨が低利で融資するものを対象としています。
- 3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】

単位 百万円

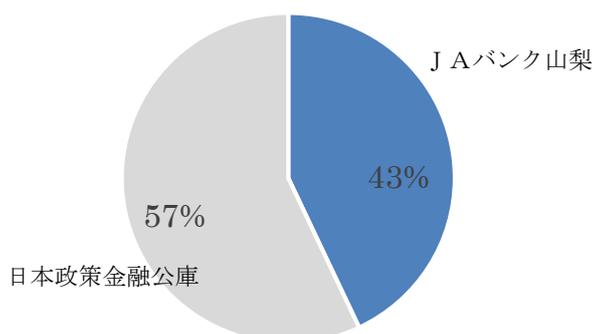
種 類	2020年3月末現在
日本政策金融公庫資金	4,937
そ の 他	0
合 計	4,937

(注) JAバンク山梨では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク山梨は、日本政策金融公庫資金(公庫直貸除く)の取扱いにおいて高いシェアとなっています。

【山梨県の公庫農業資金の取扱いシェア】

日本政策金融公庫 融資残高シェア
(2020年3月末時点)
出所: JAバンク山梨、日本政策金融公庫



(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

J Aバンク山梨は、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

J Aでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、2019年度末時点で各J A・42名配置しています。

J A系統独自の農業融資資格制度「J Aバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は2019年度末時点で県内に79名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

信連では、J Aのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。

(3) 農業メインバンクCS調査の実施と結果の活用

J Aバンク山梨では、J Aの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンクCS調査）を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク山梨は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク山梨では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金等を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

単位 件、百万円

	2019年度 実行件数	2019年度 実行金額	2020年3月末 残高
青年等就農資金	29	129	125
就農支援資金	5	7	2
JA新規就農応援資金	0	0	0
その他	0	0	0
合計	34	136	127

(2) 農商工連携の推進

J Aバンク山梨は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【2019年度 商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	総来場者数	内容
2019年度 農商工連携 マッチング フェア	2020年 1月22日	山梨県商工会連合会 J Aバンク山梨 (共催)	76団体	450名	来場したバイヤーとの個別商談会も同時開催。商談成立は全体の2割程度。

(3) J Aバンク山梨講演会・セミナー等の開催・参画

J Aバンク山梨では、一流の経営者を招いた講演会や、法人化、農業経営に関するセミナー等を開催し、担い手の経営力向上に貢献しています。

【2019年度 講演会・セミナー等開催・参画状況】

講演会・ セミナー名	開催日	主催者	対象 参加者	参加者数	内容
農業経営法人化 セミナー (第1回目)	2019年 11月12日	J Aバンク山梨 山梨県	個人・家族 経営農業者	80名	題目1:農業経営における法人化 (次世代への承継を踏まえて) 題目2:農業経営の法人化による 税制の活用留意点
農業経営法人化 セミナー (第2回目)	2019年 12月4日	同上	同上	80名	題目1:農業経営法人化の意義と 手順 題目2:農業法人の雇用における 押さえておきたいポイント
ニューファーマー 育成スクール	2019年10月 ~2020年2月	J Aバンク山梨 山梨県	若手農業者	20名	農業経営高度化に向け、① 経営スキル(会計・税務、 販売・経営戦略、雇用・労 務管理)、②経営改革プラン ニング、③経営マインドの3 つの視点からアプローチした 直接指導型スクール。受講 者一人ひとりが5年後の 農業経営改革プランも策 定。

(4) 農業法人とのネットワーク拡大

J Aバンク山梨では、更なる農業基盤の強化を図るため、農業法人とのネットワーク拡大、連携して農業イベントを開催するなど、常に近い存在であるよう関係の強化に取り組んでいます。

(5) 事業性評価を通じた農業者の経営課題の把握・課題解決ソリューションの提供・蓄積

【2019年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

		期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a/A	ランクアップ率 = b/A
正常先①		—	—	—	—	—	—
要注意先	うち その他要注意先②	—	—	—	—	—	—
	うち 要管理先③	—	—	—	—	—	—
破綻懸念先④		—	—	—	—	—	—
実質破綻先⑤		—	—	—	—	—	—
破綻先⑥		—	—	—	—	—	—
小計 (②～⑥の計)		—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	—	—	—

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成30年3月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

J Aバンク山梨では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 6次産業化の支援

J Aバンク山梨では、担い手の所得向上を支援するために、生産と販売のマッチング機能強化や、需要拡大が見込める分野の事業展開支援、いわゆる6次産業化促進支援を行っています。

(2) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク山梨では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【2019年度 負債整理資金の貸出実績】

単位 件、百万円

資金名	2019年度 実行件数	2019年度 実行金額	2020年3月末 残高
農業経営負担軽減支援資金	2	36	31
畜産特別資金	0	0	0
その他	0	0	0
合計	2	36	31

- ・ 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制

度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

- ・ 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンク山梨では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 食・農への理解促進

JAバンク山梨は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンクを通じて、2019年度には県下の小学校 177 校へ約 10,000 冊配布し、学校の授業等において活用されています。

また、県内JAでは、食や農への関心を高めることを目的とし、食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

活動名	活動内容
食農教育出張授業	県内小学校や就学前園児とその保護者を対象に、食の大切さ、食を支える農業の役割、命と健康の尊さなどの教育を深めるため、親子料理教室や食農教育を実施。

以上